令和８年３月３１日

令和７年度　学校経営報告

東京都立浅草高等学校長
樋　口　博　文

Ⅰ　令和７年度の取組目標と成果についての報告

１　教育活動の目標と成果と課題

（１）学習指導

取り組み目標	成果と課題
①「授業力の浅高」をスローガンに、「楽しい・面白い授業」を第一に掲げ、「学び方や考え方」を示し、基礎・基本の定着を重視する。また、担任・副担任・教科担当・自立支援チーム等が相互に情報共有をして重層的に生徒一人一人に対応したきめ細かな授業を行う。	授業評価アンケートより ①よく準備され、よく工夫されている。前期94%　後期97.3% ②基本的な知識や技能を身につけられる。前期94.4%　後期97.6% ③自分で考え判断し表現する力がつく。前期92.5%　後期96.9% ④興味や関心を持たせてくれる。前期89.1%　後期94% ⑤自分から取り組むようになった。前期83.9%　後期90.3% ⑥自分なりの課題や目標を持っている。85.6%　後期90.4% 後期は数値上昇がみられることは成果であるが、回収率が低下していることは課題である。 教科担任とＨＲ担任が連絡を取り合った支援体制を構築しているが、長期欠席者を授業に出席できる体制づくりや魅力ある授業づくりは継続して改善していく。
②従来の「浅高ミニマム１０」を発展解消し、以下のように学習の柱を明確にした授業を展開	各教員が意識して取り組んでいるが、全員での実施はできていない。授業の在り

する。 ａ)前時からの確認から入り、本時の振り返りで終わる授業を展開する。 ｂ)始業時に「本時のゴール(本時の目標)」と「予定」を示す。 ｃ)ルーブリックを示すことで自己評価。振り返りをできるようにする。 d)ＩＣＴ活用とリアルな活動のバランスをとる。 ｅ)生徒を主語とする展開をし、生徒が主役になれる場面を作る。 f)少人数だからこそできる授業を工夫する。 g)生徒が学びあえる場面をつくる。互いに生徒自身が発問できる工夫をする。	方が年々変わってくる中で、教員が日々研修ら励むとともに、よい指導方法の共有と実践を行って行く。 a)からc）とf）は本校の標準として徹底したい。 d）は悩みながら試行錯誤している教員に期待している。 e)g)は本校では高度だが、実践をしている場面がみられる。
③生徒の実態とニーズ、三部制や単位制の特色を踏まえた新たな教育課程を編成し、生徒一人一人にとって分かりやすい履修体系を実現する。	複雑な履修体系は生徒にとっても負担が大きい。次期学習指導要領に向けて、シンプルな教育課程のモデルを作成したい。
④本校教育課程の特色である「体験学習」「トライゼミ」「落語研究・茶道・華道・邦楽演奏」「伝統工芸」の指導を充実させる。	特別専門講師の協力を得ている。トライゼミ内の上位科目としての位置づけ等見直しが必要である。
⑤ボランティア活動や資格取得、学校外での学修の単位認定をより適切に行うための工夫・改善を行う。	学校外の単位認定について、ボトムアップの案が出ている。公平性も保ちながら機会を提供したい。
⑥年間を通した補習や長期休業日中の講習を組織的に計画、実施する。	長期休業日中の講習は工夫も見られて魅力的な講座もあるが、参加人数が低調である。
⑦生徒による授業評価を年間２回実施し、教科ごとに授業改善プランを作成する。	授業評価は実施できたが、授業改善プランの作成はできなかったが、ルーブリックを作成して生徒に示し、授業改善の一手とした。
⑧年２回の授業公開週間に全教職員が相互の授業見学を実施し、結果を報告する。	研究授業の参観は毎回10名以上が参加し、助言をする場面は日時要的である。

	一方、相互見学とはなっていないため、制度設計が必要である。
⑨昨年度までのＴＯＫＹＯデジタルＤＸ推進校としての成果と経験を生かしてＩＣＴ機器やTeamsを効果的に活用し、Ｗｅｂ配信を意識した教材研究や教材開発、指導法の工夫を行う。また「板書等を写真撮影」し、「授業資料」をTeamsに保存するなど授業のデジタルとアナログの融合を図る。	授業資料をTeamsに保存するなどして、授業欠席者の自学につなげる取り組みがみられる。将来的にはオンデマンドで授業を振り返るような体制ができるとよいと考えている。
⑩学校図書館の環境を整備し、機能を向上させることで、生徒の利用促進と読書活動の充実を図る。	一定の生徒が頻繁に図書室を活用し、図書利用をしている。一方、全体的な読書活動や生徒委員会の活動は今後の課題である。
⑪「人間と社会」プロジェクトチームを中心に、「人間と社会」のカリキュラムの見直しを行い、浅草地域の歴史と伝統を尊重し、自らの役割や可能性について考える「浅草学」を視点に、「総合的な探究の時間」として深化を図る	実態に沿って、全般的な見直しをしたい。ダイバーシティ推進校として、浅草の利点を活用したい。
⑫昨年度までのＳＩＰ（Scientific Inquiry Program）拠点校としての成果と経験を生かして、理数分野に興味・関心のある生徒の教育活動を継続的に支援する。	限られた生徒ではあるが、島しょでの研修や全日制高校とのコラボ研修が行われている。一方、マンパワーに頼ってしまっているのは課題である。
⑬校内別室指導推進事業実施校として、生徒の居場所づくりを推進し、学ぶ機会や相談する場所を整備し、学校生活への適応と進路活動の充実を図る。	別室は多い日には20名以上が居場所として活用するなどの一定の成果があり、授業へのつながりも見られる。一方、学習の場にするという課題が残っている。
⑭ダイバーシティ推進校として、日本語指導の充実を図る。	日本語指導の初年度であるが、担当の努力により、基盤づくりができた。

（２）進路指導

取り組み目標	成果と課題
①学習習慣の定着を図り、学力の向上を通した	一定の生徒は学習習慣も身に付き、進路

進路実現を目指す。	実現に向かっているが、全体を通しては、進路実現に向けたロードマップの作製、キャリア教育による意識向上が必要である。
②ホームルーム活動を利用した進路指導を学年と連携して実践し、社会と職業に対する理解を深め、社会に貢献する意識を育成する。	都の自立支援プログラムを積極的に活用している。一方、一年次ではＨＲ以外に時間確保ができず、時間不足の中での対応の工夫が必要になっている。
③自己の適性と課題に対する理解を深めさせ、進路実現に向けた行動を支援する。	オープンキャンバス参加等で意識付けを行っているが、自己理解には時間が掛かっている。キャリア教育の早期開始か課題となっている。
④ハローワーク等の外部機関と連携したキャリア教育、就職支援活動を行う。	就職支援における外部機関連携は定着し、実績も残せている。
⑤年間を通じて、面接指導や作文指導を継続する。	進路指導部、年次で就職や進学に向けた面接指導は定着している。組織的作文指導は改善の余地がある。
⑥進路ガイダンスやインターンシップ等の体験活動を通して、進路意識を向上させる。	生徒の関心を引ける進路行事の在り方を工夫したい。
⑦実力テストや適性検査等の分析手法を研修し、生徒の進路指導に生かす。	年次レベルでの研修+α でとどまっている。全体研修につながる工夫が課題である。
⑧校内組織間の連携はもとより、外部機関との連携もすることで多様な生徒に対しての支援活動を工夫する。	個人の特性に応じた外部機関との連携は行えている。個に応じた配慮を徹底して続けたい。
⑨使いやすく実践的な「進路の手引き」を目指して、改訂を検討する。	毎年、見直しをしてより見やすいものにしている。今年度はフォントを整えることをした。将来的にはＵＤフォントの使用ややさしい日本語化を行いたい。
⑩入学から卒業までの進路指導・キャリア教育の取り組みを体系化した進路指導計画を作成する。	学校としての体系化には教育課程表の見直しも含めて行う必要がある。中期視点で取り組みたい。
⑪学びと社会生活や進路の関連性を常に意識し	適宜教科内で社会生活に結び付けた工

た学習指導要領に基づく教科指導を行い、進路意識の向上につなげる。	夫は行っている。全教科で単元に１回から２回は社会事象につながる授業展開を行いたい。
⑫「大学受験支援プロジェクトチーム」（浅草Studyクラブ）を中心にスタディサプリを活用し、大学進学や公務員受験等の多様な進路支援と進路実現に取り組む。	スタディサプリの活用は一部にとどまっている。
⑬ダイバーシティ推進校として、多様な進路に対応するため外部機関との連携を深めて、進路実現を図る。	ダイバーシティ推進校としの１年目のミッションは完結できた。次年度以降は学校独自取り組みの工夫に取り組みたい。

（３）生活指導

取り組み目標	成果と課題
①「授業を大切に」を第一に掲げ、教員一人一人が始業・終業時刻を守るとともに、授業規律の確保・徹底に努める。	特殊な事情があるときを除き、授業者の意識は高く保てている。授業出席者の規律はおおむねよいが、生徒の遅刻・欠席の多さは大きな課題である。
②学校生活での必要なルールやマナーの意味を考えさせ主体的に守ることを通して社会人としての資質を身につけさせ、規範意識を高める。	頭髪・服装規定は緩和したが、TPOに応じた対応ができることで社会性をはぐくんでいる。
③近隣から愛され信頼される身だしなみを心掛け、頭髪、服装の指導や相互理解を丁寧に行う。	TPOに応じた身だしなみと同時に社会規範の指導徹底を行っている。近隣からの相談が減っていることは生徒自身の意識の表れと感じている。
④社会に通じる挨拶の励行、職員室の出入り等、ＴＰＯに応じた態度や言動についてきめ細かな指導を行う。	各教員が指導を継続しており、入室マナーはよい。学校生活全般に敷衍させたい。
⑤生徒一人一人を丁寧に観察することで些細な変化も見逃さず、生徒の心の変化を素早く把握して意欲を喚起し、問題行動の未然防止を徹底	担任、副担任、自立支援担当、特別支援教育COがYSWやSCと連携しての対応、外部機関との連携で多くの成功事例が

する。	みられる。継続したいが教員の加負担がみられるのは課題である。
⑥ホームルーム活動を重視し、コミュニケーション能力を育成する。	担任・副担任の創意工夫のもと実施しているが、出席率に課題がある場合もある。各クラス間の取り組みを共有してより良いものとしたい。
⑦ボランティア活動等への参加を通して地域への貢献を積極的に行う。	生徒会を中心に部活動へも参加者を広げている。参加者が増加した。
⑧特別支援教育コーディネーター・多様な学びコーディネーターを中心に外部専門家との連携を充実させ、多様な生徒に対する教育相談体制を充実させる。	特別支援COは学校の中心として校内は元より外部機関と連携して成果が出でいる。一方、負担の偏りがみられるので、工夫したい。多様な学びCOは単位認定につながる別室指導体制を構築している。
⑨校内・校外での巡回指導を計画的、組織的に実施する。	定期的・随時敵に実施し、未然防止につなげている。地域からの相談案件は減ってきている。
⑩ラウンジや自習室の有効活用を図り、空き時間の生徒へ自習等の場を提供する。	ラウンジの適正利用はできている。自習室の活用は課題である。
⑪互いの価値観・異文化・多様性を尊重して、ウェルビーイング(肉体的、精神的、社会的に満たされた状態)の実現を図る。	ダイバーシティ推進校として、異文化理解、多様性尊重に取り組み始めた。頭髪・服装指導も生徒会・ＨＲでの話し合いをもとに、変更し、互いの価値観を尊重しながらもTPOに応じた対応ができるようにした。

（４）特別活動・部活動

取り組み目標	成果と課題
①学校行事の精選や企画内容の見直しを図り、より適切な実施方法を検討する。	学校行事はもとより、教育課程全般を見直して、授業確保、部ごとの整合性等に取り組んだ。
②ボランティア活動の充実を図るため、実施方	上記（3）の⑦に同じ。

法や指導内容を改善し、外部機関との連携や活動の場の提供に努め、生徒の意欲を喚起し、自主性を育成する。	
③生徒会活動をより活性化させ、生徒が自ら充実した学校生活を送るための方策を考え、提案し、実現できる力を身につけさせるための指導を工夫する。	ボランティアや季節ごとに行事、周年行事や学校説明会への協力等、学校の顔として取り組めている。
④部活動の振興と、支援を強化する。	加入率は29%であるが、前年度より４ポイント上昇した。生徒の要望が多様化する中、より一層加入率を高めたい。
⑤ＳＤGs（持続可能な開発目標）の実現を見据え、校内美化や省エネルギーについて考え、実践する力を養う。	意識啓発に努める。
⑥特別活動や部活動を通して異文化・多様性を理解する機会を提供する。	日本語指導を通じて、教室前多言語掲示や文化祭での発表、講演会等を行った。

（５）健康づくり

取り組み目標	成果と課題
①喫煙防止教育・薬物等乱用防止教育を実施する。	防止教室は行っているが、啓発は継続する。
②保健指導を充実させ、性についての正しい知識を身につけさせる。	保健授業で全体的に、養護教諭等からは個別に相談に乗り、家庭との連携も図っている。
③特別支援教育心理士、精神科学校医の巡回相談を活用し、生徒の心身の健康について教職員の理解を一層深めるための校内研修を実施する。	習慣化されているＯＪＴを補うため、ＯＦＦ-ＪＴとして前期中間考査中に1回行った。
④東京都統一体力テストで得られたデータを指導に活用し、体力の向上を図る。	系統的な活用は困難さが伴うが、体育授業で生徒の意識向上のために活用できている。
⑤部活動を活性化し、生徒の体力向上を目指す。	昨年度より4ポイント向上したが、全体的には低調である。自己肯定感向上や学校への帰属意識の一助としたい。

⑥安全で美味しい給食を実施し、生徒の喫食率向上を図るとともに、食育指導を充実する。	喫食率は約５４．１％。昨年度とほぼ同じ（無償化前と比べると減少）状況である。無償化の意義を生徒に伝えて喫食率を高めたい。
⑦自立支援チーム派遣授業におけるユースソーシャルワーカー等によるユースワークを活用し、生徒の自己有用感を高め、健全な生活力を育成する。	自立支援チームの活用は日常的に行われている。担任と専門職が協議をし、教育的観点と心理職的観点のすり合わせを行い、生徒支援につなげている。

（６）募集・広報活動・地域交流等

取り組み目標	成果と課題
①本校の求める生徒像をより一層明確にするための募集、広報活動を充実させる。 （中学校訪問・学校見学・学校説明会・模擬授業・授業公開・学校ＨＰ・学校紹介動画・学校案内の改訂等）	要請訪問や説明会等を通じて、本校の特色はアピールしている。アピールする点の精査を行い、特色化を打ち出したい。
②よりきめ細かな入学相談体制を整備する。	説明会等で個別相談を行っている。ＱＡにして学校広報につなげたい。
③入学者選抜方法を検討し、広く周知を図るとともに、適正に実施する。	在京入試は２回目となり、２倍の倍率が出た。一般入試では三部の良さを打ち出したい。
④外国にルーツを持つ生徒への丁寧・正確な説明を行う。	翻訳機を利用したり徐々に通訳支援者を配置したりして丁寧さを増している。

（７）学校経営・組織体制

取り組み目標	成果と課題
①企画調整会議を学校経営の中心に位置づけ、学校運営を組織的計画的に進める。	毎週水曜日に90分の会議設定をし、課題の検討・整理を行っている。
②異なる勤務形態が存在する中で、職員間の情報共有について工夫と改善を行う。	浅草高校掲示板や毎日の昼打ち合わせを行っている。まとまった会議時間を取れないことが課題である。

③ボトムアップの提案や組織的ＯＪＴを推進し、職員の資質向上を図る。	分掌からの意見が企画調整会議で検討されている。学校全体の課題は主幹教諭会議で検討し、企画調整会議等へ提案し、さらに分掌・年次でも検討を重ねている。
④経営参画型の経営企画室としての機能を強化する。教育職と行政職の密接な連携による円滑かつ迅速な学校運営を行う。	適正かつ迅速な事務処理を行う事で教育活動の支援を行っている。予算執行の改善がみられる。
⑤学校徴収金等の徴収業務を滞りなく行い、未納者を発生させないよう努める。	教員系と行政系が連絡を取りあって個別の事情を把握しながら適宜適切に徴収している。
⑥警察・消防・ハローワーク等の関係諸機関との連携を強化する。	緊急時対応、就職指導、避難訓練等で連携ができている。
⑦近隣町内会・伝統工芸振興会・商店会・社会教育施設等と連携し、地域社会の文化・教育力を活用し、日本の伝統や文化を世界に発信する力を養う。	学校設定教科・科目での協力を得ている。
⑧経営コストの見直しを図り、効率的な自律経営予算等の編成・執行を行う。	緊縮予算の時の経験を活かして、真に必要なものを在庫状況も照らし合わせながら予算編成を行っている。
⑨施設・設備等の整備・充実を推進し、教育環境をより一層充実させる。	トイレ改修が終了し、次年度は本格的に空調整備に取り掛かる。ただし、施設面の老朽化は激しく、課題山積みである。
⑩個人情報の紛失や漏えい事故の未然防止を徹底する。	大きな事故にはつながっていないが、課題は常にある。教職員全員が意識をしているが、ヒューマンエラーが起こることを前提に、注意喚起を徹底する。
⑪全ての職員は高い規範意識と服務規程に基づき職務を遂行し、都民に信頼される学校づくりを行う。	全員が心掛けている。
⑫「自立支援チーム継続派遣校」として、中途退学者の減少に全教職員を挙げて取り組む。	中途退学者は減少傾向である。
⑬きめ細かな生徒観察を通して、心の変化に気	生命に関わる事故は防げているが、常に

づき、自殺等の未然防止を徹底する。	緊張感をもって生徒対応をする必要がある。
⑭「体罰ゼロ」「いじめゼロ」の学校づくりに努める。	いじめアンケートを実施し、事例は委員会で一つ一つ検討して解決に持っている。
⑮日常業務の効率化を図ることで超過勤務の縮減を推進するとともに、学校閉庁日の実施や年休等の休暇取得率の向上を図り、ライフ・ワーク・バランスを実現する。	年休取得は平均15日以上だが、一部の教職員にオーバーワークがみられる。

2　重点目標（主な数値目標）

（１）学習指導

①　学校評価アンケート（生徒）において「三部制・履修登録の理解度」を９５%以上とする。(5年度86、6年度94)　⇒７年度【８９%】

② 学校評価アンケート（生徒）において「学力向上の実感」を８０%以上とする。

(生徒　5年度66、6年度72)　(保護者　5年度69　6年度71)

⇒７年度【生徒６９%、保護者６１%】

③生徒による授業評価アンケート全項目3.5以上とする。(６項目４段階評価)

⇒７年度【３．７】

（２）生活指導

①「自立支援チーム継続派遣校」として、中途退学者を前年度比５%減少させる。

⇒７年度【42人】（R6　50人）

②特別指導の件数を前年度比５%減少させる。

⇒７年度【15件】（R６　15件）

（３）進路指導

①２月末日時点での卒業見込者の進路決定率を７０%以上とする。(6年度　67)

⇒７年度【７４%】

②卒業年次５月の進路希望実現を７０%以上とする。

⇒７年度【70.7%（大学56.7%、短大100%、専門37.3%、就職88.8%）】

③２年次２月時点での進路希望把握を、３修制希望者100%、4修制以上希望者６０%以上とする。

⇒７年度【3修制９０%・4修制以上希望者６０%】

（４）校内研修、生徒募集、広報、地域との連携　その他

①　校内で実施する教職員対象の研修会を年間１０回以上実施する。

⇒７年度【15回達成】

②分割前期募集の受検倍率を１．０倍以上とする。

⇒７年度【0.71倍】

③　校内・外の学校説明会を年間２０回以上実施する。

⇒７年度【27回】

④　在校生が複数いる区の教育支援センター(ブリッジスクール・適応指導教室)を教員で１回以上訪問する。

⇒７年度【未実施】

⑤　ホームページは、年間１００回以上更新する。

⇒７年度【おおむね達成】

⑥　生徒による地域のボランティア活動を５回以上実施する。

(5年度５回、６年度３回) ⇒７年度【３回】

⑦　部活動加入率を上げ、１団体以上の部活動を関東大会以上に出場させる。

⇒７年度【29.25%・2.98%上昇】（R6　26.27%）陸上部

⑧　教育活動中の怪我等の生徒事故を０とする。

⇒７年度【０件】救急車を呼ぶような事故はなかった

⑨　体罰０件・いじめ０件を徹底する。

⇒７年度　いじめと認知した指導案件あり。

⑩　ライフ・ワーク・バランス実現のため、月８０時間以上の超過勤務者０名、年１５日以上の年休取得者を全職員の８０%以上とする。

⇒７年度　超過勤務者１名（管理職及び週休日の部活指導手当対応者を除く）

１５日以上年休取得者　６７%（管理職を除く教員系常勤者）